



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 2790 号 2015.12.25 発行

「申」の鈴、優しい音色 石狩のNPOが制作 北海道新聞 2015年12月23日
 来年のえと「申」をかたどったえと鈴の絵付けをする柏野俊子さん



【石狩】来年のえとの「申（さる）」をかたどった陶製の鈴作りが、NPO法人「ふれあい広場タンポポのはら」（柏野俊子（しゅんこ）理事長）で進んでいる。

心身障害者のための地域生活支援事業を行う「タンポポのはら」は小規模作業所だった1997年から毎年、手作りのえと鈴を制作、販売している。一時は150個作った年もあったが事業拡大で人手が足りなくなってからは、理事長の柏野さんが「12年で1組のえとを途中でやめられない」と1人で50個を作り続けている。

今年も10月から制作を始めた。手作りの石こうの型に粘土を詰めて焼き、今週からは絵付け作業に入った。中に陶製の玉が入っており、振るとからからと心地よい音を立てる。

「来年も良い年に、という思いを込めて優しい色合いにしました」と柏野さん。敷物付きで1個千円で販売する。問い合わせはタンポポのはら（電）73・9056へ。（山中いずみ）

夫婦関係と発達障害（上）母離れできない夫、妻の苦痛 読売新聞 2015年12月8日

専門家シリーズ、次は発達障害の一種である「アスペルガー症候群」に詳しい「どんぐり発達クリニック」院長の宮尾益知さんです。宮尾さんは、小児神経内科、児童精神科がご専門ですが、子どもの発達障害を診ているうちに、子どもが思うように改善しない場合には両親のコミュニケーションに問題があることに気付き、大人の発達障害、特に夫婦、家族関係の問題も考えながら診るようになりました。性とパートナーシップで体験談を取材してきたところ、意図せずして2組のカップルでアスペルガー症候群が影響していたことがわかりました。100人に1人が抱えているとも言われるこの発達障害は、もしかしたら気付いていないだけであなたや身近なカップルの性とパートナーシップに影響を与えているかもしれません。

アスペルガー症候群のパートナーシップについて語る宮尾さん

——まず、アスペルガー症候群とはどのような発達障害なのですか？

「今は、『自閉症スペクトラム障害（ASD）』という診断名に統一されていますが、一般に『アスペルガー症候群』や『自閉症』という言葉もまだよく使われていますね。ASDは、社会生活に必要な三つの能力に問題がある発達障害です。三つの能力とは、①コミュニケー



ション能力②想像力③人と社会的関係を持つ能力です。ASDのうち、知的能力が正常範囲以上で、言語発達の遅れもない方をアスペルガー症候群、知的発達に遅れがある方をカナー型自閉症と言います。アスペルガー症候群は、真面目で規則を守り、決まったパターンの仕事については集中力があり、専門的な職種で力を発揮するなどの長所がある一方、変化に弱い、周りの空気が読めない、言葉で表現するのが苦手な誤解されやすい、社会の暗黙のルールがわからないなどの短所があります。その人の個性や生き立ち、社会的な経験によって様々な症状が表れるので、一人一人抱えている問題も異なります」

——アスペルガー症候群はどのぐらいの割合でいると言われていたのですか？

「アメリカでは130人に1人ぐらいと言われていたのですが、日本でもおおむねそれぐらいだと思われています。男性の方に多く、男女比は5：1とも言われていますね。知的能力が高いため、就職も結婚も通常通りされている人が多いので、大人になるまで気付かれなかった『大人の発達障害』として最近、注目されるようになりました。中には、医師や弁護士、企業の管理職など社会的に高い地位にある人も数多く含まれています」

——アスペルガー症候群の夫を持った妻が抱える問題も注目されていますね。

「夫とのコミュニケーションがうまくいかないのに、周囲の人には『真面目ないい旦那さんじゃないの』とか『男なんてたいいそうよ』と受け流され、わかってももらえないことで、自分が悪いと考えてしまい自信を失ってしまいがちです。心の葛藤から、心身に苦痛が生じてしまう状態を『カサンドラ症候群』と、イギリスの臨床心理士であり自身も同じ状態であるアストンにより提唱されました。カサンドラとは、ギリシャ神話で太陽神アポロンに予知能力を授けられたトロイの王女の名前で、トロイの滅亡を予知して周囲に伝えるのですが、信じてもらえずにトロイは滅亡してしまいます。周りに夫の問題を理解してもらえないアスペルガー症候群の夫の妻も似たような状況に置かれるためということです。偏頭痛や体重の増減、自己評価の低下や抑うつ、パニック症候群などが典型的な症状です。海外から始まりましたが、日本でも同じ問題を抱えた女性たちの自助グループ活動が始まっています」

——「性とパートナーシップ」で体験談を取材すると、セックスやパートナーシップがうまくいかないカップルの背景に、アスペルガー症候群が隠れていたケースが複数ありました。どういう特徴が影響を与えると考えられるのでしょうか？



発達障害の治療に使うロボットを前に語る宮尾さん

「私の診ていたアスペルガー症候群のお子さんのお母さんに話を聞いていくのですが、お父さんがほとんど出てこないことが多かったんです。シングルマザーかな、離婚されたのかなと思うぐらいに。勇気を出して聞いてみたら、同じような疑問を持ったお父さんたちの行動パターンは全部一緒でした。家

庭内での社会性がないし、人の心がまったく読めていない、奥さんとのコミュニケーションがまったく取れていないとのことでした。お母さんはほぼ全員がうつになっていました。そこでそのお父さんを変えれば、母のうつはよくなり、子どもも思ったように改善するのではと考えました。そのような、お父さんだけを集めてみたら、みなさん立派な紳士たちでした。会社の重役とか医者とか社会的地位の高い人ばかりで、セミナーの現場で私に質問される内容も理路整然としていましたし、家庭内で社会性がないと母たちから言われていましたので『あなた方はどうやって社会性を身につけたのですか？』と聞いてみると、『僕は損得で身につけてきました』という人が多いのですね。知的能力が高いから、社会の中で損得を考えて動いて、今の高い地位を得たということでした。翻って、家庭の中では損得は生じないわけで、せいぜいおいしい食事、温かいもてなしが得としてあるわけですが、それはあまり意味をなさないとのことでした。だから、家庭内での社会性である夫婦関係に反映されないのではと考えるに至りました。また外の世界のビジネスで有効である素早

い判断、冷静な分析、冷徹な人への評価は、家庭内では逆の効果を生み出します」

「家族関係にも注目して、成育歴についても考えてみると、アスペルガーの男性は新しいことになじむのが苦手です。家族関係から考えてみると、ある時期までは母親の息子ですよね。思春期になって恋をして、結婚する。そこでの問題の一つは、自分が『母親の息子』という意識のまま、母親とつながったまま、結婚してしまうことなのです。女性は母しか知らないですから、女性の未熟な時代も知りませんし。新婚時代から、自分の母親と同じ役割を妻に求めてしまいます。さらに、奥さんがうつになってしまう原因として、ご主人の母親の存在があります。母親にとって、一流大学を出て、一流企業に務めている息子は自分の誉れです。その息子の子どもが出来が悪かったら、奥さんが悪いということになります。その思いがいつも降りかかってしまう。自分の息子は一流大学を出ているのに、勉強をしない、勉強ができない孫は、妻が頭が悪いか育て方がだめなのかということになります。『私は母親としてこんな社会的に立派な息子を育てたのに、あなたは怠慢』という視線が常にあるわけです。そうすると必死に子どもを教育しようとし、子どもは母に反抗し、母はますます気持ちが保てなくなります。そんな子どもたちがたくさんいます。おまけに祖母は孫に甘いので、同じ家の中でダブルスタンダードができてしまいます。妻はパニックになりますが、ご主人はそれに無頓着で、父の役割に加えて夫の役割も果たさないから、また落ち込む。奥さんが困った時に、『大変だったね。お前の味方をしてあげられなくてごめん』と言うのは夫の役割ですが、母親の息子のままでいるので、その役割を担えないのです」

——ほかのパターンはあるのですか？

「もう一つは、逆に母親とけんかしている息子のパターンですね。基本的に母親は、社会の中でうまくやっていくために、二面性があります。例えば、PTAの担当の先生について陰で悪口を言っているけど、先生の前ではぺこぺこしてゴマをすってばかりいる。それを見てアスペルガーの息子は『あの女はうそつきだ、許せない』と、母親と断絶してしまうのです。そういう場合は、奥さんがすべてになります。2人での限りはハッピーなんです。そこに子どもが生まれ、特に男の子が生まれると、自分にとっての恋敵になってしまうのです。奥さんに「おまえは人妻なんだから、子どもといちゃいちゃしてはだめだよ」と言ってしまう。母であることより、妻であることのランクが高いというわけです。恋人や新婚時代はとても関係性がいいのに、子どもが生まれたとたん自分に注目してくれないので、ライバル意識を持って不機嫌になるというパターンです」

——そもそもアスペルガー症候群の3種類の特徴があると、恋人や妻との関係は築きにくそうですね。

「アスペルガーの人は基本的に、自分とある程度関係のある人しか口説きません。自分に対して何となく好意を持っている人と思う人しか口説かないのです。逆に言うと、そういうサインを出している女性、先に自分に理解を示してくれている女性とくっつくのです」

——アスペルガーの男性に好意を持つ女性の特徴はありますか

「いろいろあると思いますが、カサンドラ状態になっている方而言えば、二通りいると思います。衝動的で思い込むと後先考えずに飛び込んでしまう注意欠陥・多動性障害（ADHD）タイプですね。もう一つは、自主性のないタイプ、子どもの頃から母親がすべての彼女の行動を指示し、ずっと母親の言う通りに育てている女性です。最も不幸になった方は、母から独立しようと思ひ、ある人を好きになったけれども学歴が良くないと母に言われてやめてしまい、母が良いといった人と結婚したら、相手がアスペルガーだったという人がいました。なんとか気持ちを持ち直して、今はあきらめの気持ちで子どものために一緒に生活を送られているということでした」

——アスペルガーの男性も結婚するところまではうまくいくのはなぜなのでしょう？

「アスペルガーの男性には、恋愛時代のマニュアルが確立されています。本当に良いものが好きなのです。マニュアル通りであれば、何でもどんどんやってくれるのです。女性とうまく付き合う方法とか、ご飯を食べると言ったらこことか、ハウツーが頭の中にあっ

て、その範囲内ではしっかりと行動力を発揮してくれる。また論理的で、真面目です。また性的なことに対する興味が薄いので、とても清潔でいい人に思えるのです。ADHDタイプの女性は衝動的で、目の前にある魅力的なものにすぐに飛びついてしまいます。アスペルガーの男性が、自分のマニュアルに沿って『フランス料理でも』とデートに連れて行くと、フランス料理に『素敵だわ』となって飛びついてしまう。今日は、給料日前だし、ちょっと雰囲気を変えて焼き鳥屋に行こうかという男性より魅力的に思えませんか。でも、結婚した後は、マニュアルがもう存在しませんし、毎日フランス料理というわけにも行きません。どうしたら良いかわからなくなり、結果、無関心になってしまいます」

——性的なことに興味が薄いというのはどういうことですか？

「性的なことには二つの要因があります。一つは快樂、一つはコミュニケーションでしょう。アスペルガーの男性はコミュニケーションという概念は理解できないし興味がありません。すると、もう一方の面だけになってしまいます。もし、風俗で体験をして快樂を得たとしたら、それが当たり前となって、恋人にもそれを求めてしまいます。それを奥さんがやってくれないと許せないわけです。しかし、それは女性の求めるセックスとは違うから、ずれが生じてしまう」

——触れられるのが苦手という特徴があるとも聞きました。

「そういう人もいますね。狭義のアスペルガーでは、感覚過敏が強いので、触れられたり、聴覚、いろいろな音が同時に聞こえていたりということが苦手です。こだわりがうんと強いような、ガラスの心を持っている人が本当のアスペルガーですよ。社会の中でバリバリやっているような企業の社長のような人は、広義のアスペルガーですね」

——触れられるのが嫌というと、セックスレスに直結しますね。

「人が嫌いと言うことにも通じますから。それもあります。もう一つの問題は、部分に注目して、全体を見られないということですね」

——セックスの場合、例えばどのような問題が起きることが考えられますか？

「直接的にある1点に触れることだけ興味がある。そこだけということです。残りは興味がないのです。本来、セックスというのは、相手のトータルに関心がありますよと示す行為でしょう。それが1点だけの関心となってしまいます」

——性器なら性器だけと。女性としては、『なんだろう、この人』となってしまいうわけですかね。でも日常的にはそのようなことが許されることは少ないと思うので、結果淡泊になってしまうということですね。

「そういうことです」

——女性側で、そういう性的に淡泊な男性を選んでしまうというのは、なぜなのでしょうね。

「例えば、若い男性がたくさん職場にいる女性ですね。僕が診ていたある患者さんは、法律事務所に勤めていたのですが、周りの男性から『あなたは本当にかわいいね』とちやほやされ、デートにも頻りに誘われるし、性的にギラギラした目で見られ続けていたんですよ。ところが、そこにある日、自分に無関心な相手が現れて、『あんた、足太いね』と言ったそうです。そうしたら彼女は『ああ、こんな正直な人はいない』と一気に惹かれてしまったのです。その人は法律関係の方でした。女性はADHDタイプの人でしたね」

——アスペルガーの男性と衝動性のある女性は、出会うべくして出会ってしまうのですね。

「そうですね。それに、ADHDタイプの女性にしても、過干渉なお母さんから支配されて育ってきた女性も、やはり自分を見守ってほしい、理解してほしいという欲求が人一倍強いのです。強いから、逆にアスペルガーの夫とコミュニケーションがうまくいかなかった時に、『この人は私をわかってくれない』ということに対する耐性が弱いので、カサンドラになりやすいのですよね」

【宮尾益知 みやお・ますとも】 どんぐり発達クリニック院長

1975年、徳島大医学部卒業。国立成育医療研究センターこころの診療部医長などを経

て、2014年4月、どんぐり発達クリニック開院。専門は、小児の発達障害で、日本小児科学会専門医、日本小児神経学会専門医などの資格を持つ。『アスペルガー症候群』（日東書院）、『大人のアスペルガー症候群』（同）など著書多数。監修した漫画『旦那さんはアスペルガー』シリーズ（野波ツナ、コスミック出版）では、カサンドラ症候群についても詳しく解説している。

夫婦関係と発達障害（中）「エリート」も多いアスペルガー

読売新聞 2015年12月15日

どんぐり発達クリニック院長の官尾益知さん

——最近、大人になってからアスペルガー症候群であることに気付いた「大人発達障害」が注目されるようになりました。増えているのでしょうか？

「絶対数が増えているというよりも、日本の家族や社会のあり方が変化し、見えやすくなってきたのだと思います。昔のようにお父さんは仕事ばかりして、遊ぶのも外で、ろくに家にいないし、家族のことは妻に任せきり。妻は妻で女同士で過ごしていて、男女7歳にして席を同じくせずという環境であれば、アスペルガー症候群の人は目立ちません。しかし、コミュニケーション能力がずっと問われるようになった今は、空気が読めない人は「KY」と言われ、仕事ばかりではなく、『お父さんも育児を』となれば様々な役割を演じなくてはならず、アスペルガーの人の問題が様々などころで見えてきます。今日、私の診療に来た女性は、アスペルガーと診断されたのが20歳です。同窓会で同級生の非言語のメッセージが読めずに、学生時代に好きだった人の自宅に連れて行かれて、望まない性行為をさせられてしまい、統合失調症のような状態を発症してしまいました。その女性の母親に話を聞くと、『夫は自分や娘の気持ちを全くわかってくれない。自分勝手』という話をしていました。昔ながらの厳格な家庭を守っている人って、たいていエリートですから、そういう中にたくさんアスペルガーの人が隠れていますよ」

——パートナーが対処する方法はありますか？

「距離を持たないといけませんね。ある人のだんなさんは予備校の人気講師で、年収が数千万円ということでしたが、やはりアスペルガーでした。その奥さんは、『私はうちの夫に、息子をどういう風に遊ばせればいいのかを伝える場合、すべてストーリー仕立てで書く。夫がその通りにしてくれたときには、彼が好きなコーヒーをいれてあげると、嬉しそうに飲むんです』と工夫を話してくれました。してほしいことを具体的に伝えて、ご褒美を上手に与えるということでもうまく回しているのですね」

——アスペルガーの多くは男性ということですが、男性本人はどのようにしてパートナーシップを築けばいいのでしょうか？

「まず、お母さんの育て方が大事になってきますね。例えば、思春期になって、いいと思う女の子ができる頃から、女性はどのような生き物で、こういう風に男性に接してもらえると嬉しいのよということをパターンの的に教え込むことです。こういう付き合い方をしなさい、こういうことはしてはいけませんと教え込めば、それを覚えて、実行するようになります」

——それ以外はできないのですかね？ 応用力は身に着けられませんか？

「でも、1人の人間がそれだけでできれば十分でしょう？」

——確かに。一般の男性だって、「女心がわからない」と言っている人多いですものね。

「それとお母さんが、いずれ、あなたはこの家族から離れていくのよということを息子に教え込まなくてはなりません。お母さんと息子という世界が、結婚しても続くと考えてはいけません。これは一般の男性でも言えることですけどもね」

——いわゆるマザコン的な感じでしょうか？

「そうそう。マザコンの中にもかなりそういう人がいます。健康な子どもは外で友達と遊んだり、スポーツに専念したりして自分から距離を取って行きます。そうならない子ど



もの場合、母親は、だんだん自分から距離を取っていくのがいいです。具体的には、12歳になったら、あんたは男で、お母さんは女なんだから、前腕の長さ以上の距離を置くということを伝える。12歳までは一緒にお風呂に入ろうが、一緒に寝ようがOK。でも12歳過ぎたら、お母さんとの距離を保つ。お風呂に入るのも一緒に寝るのもだめ。男の子にとって、お母さんは昔おっぱいを吸っているわけですから、アスペルガーの人は、高校生になってもお母さんのおっぱいを吸っていることをおかしいと感じないんです」

——それは困りましたね。

「もう一つ問題なのは、お母さんは急に自分の息子が男になったのに気付いて、遠ざけることがあります。すると、昨日まで僕のことを抱っこしてくれていたお母さんが急に僕を避けるということで、アスペルガーの男の子は理由がわからなくて混乱するわけです。一般的な子どもは、ほかの子どもとグループを作って、お母さんと徐々に距離ができていく。そして今度は彼女ができるわけでしょう。彼女ができない男だとうちにいるしかありません。アスペルガーの家庭だと、たいていお父さんは家にいませんから、お母さん自身も寂しくて、息子とくっついてしまいます」

「アスペルガーの人が上手にパートナーシップを築くには、親の育て方が大事」と話す宮尾さん



——共に依存してしまうわけですね。

「そうです。その息子とくっついている時に、ある日男になっていることに気づき、遠ざける。すると、子どもはお母さんに暴力を振るうこともあります。また、お母さんは、生理的なことを性的なことと勘違いして、自分が何とかしてあげなくてはと処理してあげてしまうこともあるのです。夫は家庭に不在でコミュニケーションも取れませんから、だんなにどうにか教えてあげてねということもできないのです。アスペル

ガーの男性は、自分がこっそりやっていることを人に見られるのを嫌います。私が診ていた患者さんもそうですが、おしっこをするところをお父さんが人に見られるのがいやだからと、お母さんが立って教えてあげたそうです」

「もう一つの問題は、男の子にとって、父親と母親はいつまでも父親と母親なんです。女の子にとっては、父母は未来の夫婦像なんです。男の子の方は、結婚して自分が夫として生活を作っていくということを考えない。未来を想像できないのです。どういう家庭を作るのか、自分の家族で学んでいないのです。だからこそですが、母親と娘の関係はややこしいこともあります」

——女の子のアスペルガーの場合は、どのように対処ができますか？

「極端なことを言えば、戦前の女性教育です。男女7歳にして席を同じくせずですよ。セックスは結婚するまでいけません。何か男性に性的なことを言われたら、家に電話して相談しなさいと教え込む。私が診ていたある女の子は、好きであることとセックスすることの違いがまったくわかりませんでした。13歳の女の子が、付き合っていた同じ年の子どもと性的な関係を持ってしまいました。相手が裏で悪いことを考えているということが想像できないのです。町を歩いていたアスペルガーのある子が、『お嬢さん、すごく汗をかいていますね。それじゃ体に悪いから、シャワーを浴びた方がいいのではないですか？』と言われて、ついていってしまったということもありました。ですから、そういうことを親は一つ一つ教えなくちゃいけないのです。男女の関係はほとんど非言語のコミュニケーションで成り立っています。理解するのがアスペルガーの人は苦手なのです。一般の人のように、裏にある意図を読めて、逃れるコツを知っているなら大丈夫ですが、デートをして『あなた今日は疲れているでしょう。何もしないから今晚泊まりなさい』と言われて信じてしまうのがアスペルガーの女性です。だから、親が必ず報告しなさいと戦前の厳格な親のように振る舞う必要があるのです」

——親は早期発見して、早めに対処した方が、本人も生きやすくなるのでしょうかけれども、アスペルガー症候群を早めに気付くポイントはあるのでしょうか？

「女性の場合は、思春期に身体不調が強く出やすいですね。女性の場合、思春期に女性ホルモンが出て、体形が変わり、生理が始まるわけですが、その変化が余計強く起きます。眠くてつらい。学校に行けないという人に多いです。また、感情と身体の間結びつきがないのも特徴です。ある男のところに行くと、心臓がドキドキするので、私は心臓が悪いのだと思いますなんて言います。ある人は、おじいちゃんが死んだら、目から水が出る。お母さんも目から水が出ている。なぜ？と聞きます。それが悲しいという気持ちで、その水は涙なんですと説明して初めて結びつきます。また、ガールズトークができない。それが一番発見しやすいかな」

「それから結婚前に男性に性的に望まぬことをされたという人に多いです。女性の場合は、基本的にほかの人の目を気にしないから、スカートが極端に短い人が多いのです。これが10代前半ならおかしくないですが、18、19歳だとおかしいでしょう？ 私の診ていた人で水商売に行った人がいますが、『私は水商売に入って初めて、働く喜びを得ました』と言うのです。おじさんたちがあなたはよく笑ってかわいいねとちやほやしてくれる。それはもちろん、距離感がないからです。ベターとくつつくから、男が喜ぶんです。でも、話す面白くないから、その人気は長く続かないですね」

——男性の場合は、何が早期発見の決め手ですか？

「男の子の場合はやはり、こだわりですね。電車ばかりに没頭するとかですね。男女両方とも、感覚過敏はありますね。触覚のほかに音や匂いにも敏感ですね。わりと、特徴的なのは、しいたけが嫌いということですね。キノコが嫌いですね。キノコってかむとかみ切れるのだから、そうでないのかわからない。その感触がのみ込みづらくて、その経験を1度やると食べられなくなる。キノコをきらいな人は多いですね」

夫婦関係と発達障害（下）「言外の意味」どう伝えるか

読売新聞 2015年12月22日

どんぐり発達クリニック院長の宮尾益知さん

——結婚してから相手がアスペルガー症候群だとわかった場合、パートナーシップを構築していくにはどのようにしたら良いのでしょうか？

「人と人とのコミュニケーションは70%が非言語で、言葉を使うのは30%だけなんです。アスペルガーの人は、その30%だけで判断しているわけです。文字通りのコミュニケーションと言っていいでしょう。例えば、バカにしたようにニタニタ笑いながら『あなたはきれいですからね』と言ったら、通常は非言語のメッセージを読み取るでしょう。本当に感心したように同じ言葉を言えば、まさに文字通りのメッセージなわけですが、言葉と裏腹の非言語のメッセージは読めない。ということは、非言語の部分を言語化するとよいのです。非言語の部分は脚本で言えば、ト書きの部分です。ですから、パートナーはト書きもすべてしゃべることをすればいいのです」

「例えば、奥さんが風邪をひいてゴホゴホせきをしながら皿を洗っているとします。夫がやってくれないと心の中で不満を抱えるのではなく、『私は風邪をひいて咳をしながら洗っているけれども、誰も変わってくれる人がいない。代わりに洗ってくれるとうれしいし、とても感謝するわ』と言えればいいわけです。代わってくれないのをひどいと責めるのではなく、心の声を言語化しましょう。体調が悪い時に、心の中で優しい言葉を期待するのではなく、『私はあなたの優しい言葉があったら元気になれるわ』と言えば、アスペルガーの人は優しい言葉を言えるわけです。アスペルガーの人の考え方は、『咳をしながらでもできている。だから手伝わなくてもいい。病気を治すのは本人と医者だから、自分には何も関係がない。早く薬を飲んだ方がいいぞ』というだけです。どうしてほしいか全て言わないと、わからない。例えば、母の日が誕生日の場合、『お花はカーネーションでいいのよ』と言えば、夕方スーパーに行って、ビニール袋にいれたカーネーションを買ってきて、『はい、これ』と言って差し出します。奥さんは『私はこれが欲しかったんじゃない』



と言いたくなると思います。けれども、アスペルガーの男性としては、奥さんの言う通りにしているわけです。言外の意味がわからないとは、このようなことを言います」

——一般の男性もそのへんは間違える人多そうですが（笑）。

「そうかもしれませんね。どうすればいいかと言うと、自分のイメージを言葉にしたらいいいのです。H花壇の、3000～5000円のカーネーションの花束を買って来てくれると私はうれしい、『誕生日おめでとう』のメッセージがあると最高なんだけど、と言えばいいのです。毎年、こうしたことを繰り返さなければなりません、時には求めるものを食事に変えてもいいですよ」

——察することは無理だから、すべて言葉で要求しろと。

「そうそう。男性も女性も同じです」

——パートナーはかなりの覚悟が必要ですね。

「私が診ている中ですごくうまくいっている人がいて、その人のご主人はどうも純粹なアスペルガーの方のようでしたが、『あなたはなぜカサンドラにならないの？』と聞いてみたら、彼女いわく、『私はお見合いですから、最初から何の期待もしていません』と。お見合い結婚では、この人はこれぐらいの地位の人で、将来の見通しはこうだという条件で結婚して、それ以上は求めなかったことが良かったようです。アスペルガーの男性と結婚する時に、『自分の旦那と思わずに、誰か困った男性のヘルパーに入ったのだ』と思うと、気持ち楽になるようです。自分は妻だと思うから我慢できないのであって、距離を適切に取れば、うまくやっていくこともできます。もし他人であれば、あなたの誕生日にくれたカーネーションが500円のものだったとしても『ありがとう』と言えますよね。旦那だと思うから、『なんでこんなものを』と行ってしまっ、お礼が言えなくなるのです」

——あまり期待しすぎないようにすると優しく接することができるのでしょうか。

「役割をちゃんとすればいいと思うのですよね。お金をちゃんと稼ぎ、困った時に知恵と力を貸してくれることができればいいじゃないですか。アスペルガーの場合、重要なことについて自分の考えが固まるまでに時間がかかります。重要なことを『急いで決めて』と言われたらフリーズしてしまいます。ですから大事な相談は、あらかじめ1本に絞って『2週間後までに考えて』という具合に、期間を取ればいいのです」

——そういう付き合い方のコツを学びながら接すれば、通常のパートナーではないかもしれないけれども、一緒にやっていくことは可能なですね。

「アスペルガーの人は論理性が高く、論理で説明すればわかる」と話す宮尾さん

「最終的に考えるべきは、あなたにとってこの結婚を続けることにメリットがあるかどうかということ。別れることはいつでもできる。自分が1人になった時と、旦那と一緒に暮らすことをてんびんにかけて、どちらが得なのかを考えてくださいと僕は伝えますね。

ある女医さんは旦那さんがアスペルガーで、別居に踏み切ったんです。東日本大震災が起きて、その旦那さんは東北にボランティアに行ったのですが、厳しい現実を目の当たりにして、他人の立場でものを考えることができるようになりました。そこからまた同居するようになったのです。アスペルガーの人はずっと変わらないわけではありません。とても時間がかかりますが」

——アスペルガーの人も変わることもできるのですね。

「人に対する気持ちとか、人の悲しさとか喜びに接して、変わることもあります。あるアスペルガーの男性は、家では何度説明しても、お風呂に2時間ぐらい入るのですが、精神科病院に入院したとき、看護師さんに、『お風呂に時間がかかり過ぎたらみんなが迷惑するから、2時間も入っちゃだめよ』と言われたんですね。そうしたら彼は、他の人がどうやって体を洗っているか観察して、どうすれば15分で入れるようになるか学びました。



『君は30代後半にして初めて、人を観察して自分を変えることができるようになったね。相手の立場に立てるようになったね』と、精神科の主治医に褒められたそうです」

——カサンドラの妻に対するアドバイスもお願いします。

「まず、道は別れるか、一緒に暮らすかですよね。その場合、やはり自分にとって得があるのかどうか考えた方がいい。感情で動かず、損得で考えなさいと僕は伝えています。もし、専業主婦で、別れたら今と同じ暮らしができないというのなら、やはり一緒にいた方がいいのかもしれない。もし、お子さんがアスペルガーならば、思春期から親が徐々に離れてあげる。『今日は、お母さんは習い事があるから外出するよ』という時間をたくさん作る。こうして子どもとの距離を親から作るのです」

——セックスに関して、うまくやっていくにはどうしたらいいのでしょうか。

「やはり女性が言葉にして言うべきではないでしょうか。女性側からああしてほしい、こうしてほしいと要求を伝える。もしかしたらお母さんが息子に教えこんでおいたほうがいいのかもかもしれませんが、それは無理ですから、結婚してから妻が言うべきですね。もう一つ問題を言うと、女性は時によって気分が変わりますよね。いつも同じではいけないということも、アスペルガーの人には理解しがたいことかもしれません。僕が診ていた人だと、奥さんが昔好きだったお菓子をけんかの度に買ってきて仲直りをしようとするんです。ぼんと置いて、にたりと笑ってその場を離れる。でも奥さんはそのお菓子を食べて飽きていて、ゴミ箱に捨てちゃうわけです。飽きたというよりも、そのいい加減な対処の仕方が許せないのだと女性スタッフから言われました。男性は、いつものものでよくて、変わらなくてもいいのですよね。毎日同じものを食べて、同じパターンでもいいのです。セックスも同じです。ですから、ある程度いろいろなパターンが必要なのだということを、奥さんが教える必要があるかもしれません」

「もう一つ、人のふり見て我がふり直せという方法。映画を一緒に見て、こういうのが私の理想だと伝える。私はこういうものを望んでいますということを視覚的に見せるのは有効です。アスペルガーの人は視覚を重視するので、話をする時も映像や図表を見せながらだとスムーズに進みます」

——薬物療法もあるそうですね。

「注意欠陥・多動性障害（ADHD）の薬なのですが、少し心が優しく、広くなるようなお薬があるので、これが効果がある人もいます。抗精神病薬の少量投与、感情安定剤、サプリメントなども効果があることもあります。人の脳内ではシナプスという神経細胞のネットワークが、様々な部位で有機的に結びついて社会性を作っているのですが、アスペルガーの人ではそのネットワークが3歳までにうまく作られないのだということがわかっています。ホルモンの一種であるオキシトシンを鼻から吸入することで、このネットワークがうまくいき、コミュニケーションの障害が改善されたという報告もあります。これから治療法も前進していくでしょう」

——アスペルガーのパートナーを持つ人に、最後にメッセージを。

「アスペルガーは論理性が高く、論理で説明すればわかる人たちなんです。男性脳、女性脳という説があって、男性脳は論理、女性脳は感情や共感性と言われますが、論理性が高い人がアスペルガーや自閉症になり、感情や共感能力の高い人がヒステリーになると言われています。ですから論理性が高いということを認めてあげて、その人の世界を大事にしてあげる。ト書きを書いてあげ、それを演じてもらう。できたら褒めてあげる。お互いの世界を大切にするなど、お互いが人として大事にし合えるような家庭が築けると良いですね。こうして、そのご夫婦の子どもが幸せに育って、良い大人になり、パートナーも幸せにできるようになってほしいと思っています」



月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も
大阪市天王寺区生玉前町 5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行